

算命学中庸

【初年】 36 回目

36 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【二星相関変化法①】

・【初年】 36 回目【二星相関変化法①】 01

□ 【二星相関変化法①】 (にせいそうかんへんかほう①)

にせいへんかほう
「二星変化法」ともいいます。

参考：相関〔相互に関係しあって、互いに影響し合う関係の意〕

皆さまはすでに、十大主星それぞれの意味合いを一通り
まなびました。

△ 02～03 頁に基本的は意味合いを記載しました。

十大主星 ①

May-09

貫索星 かんさくせい (守備本能の陽) (五徳は福)

独立独歩、頑固で自我心が強くマイペース、一度決心したことは簡単には変えない意固地な面を持ちます。独立心は旺盛で集団行動よりも単独行動を得意とする個人主義です。周りを気にせず自分本位に物事を進めるために強調性には欠けやすい面があります。

石門星 せきもんせい (守備本能の陰) (五徳は福)

協調性・協和性に富む。人付き合いが良くて人をまとめていくのが上手です。集団を作りやすく集団の中で統率力や説得力を発揮します。内面に反骨精神を持ち横社会で活躍しやすく縦社会を無視する面を持ちます。政治力の星でもあります。

鳳閣星 ほうかくせい (伝達本能の陽) (五徳は寿)

穏やかでのんびりした性格で無理せずに自然に生きていこうとする質は環境に順応しやすく無欲的な特徴を持ちます。しかし内面の神経は細かくて観察力があります。遊び心があり趣味は多才で芸術面にすぐれます。

調舒星 ちょうじょせい (伝達本能の陰) (五徳は寿)

一人でものを考えるたりする事が好きで孤独の星といわれます。多情多感で空想力があり、心理面の葛藤が大きく神経質です。反発心を内に秘めて本心を出そうとしますが、聖職者の情愛にも等しい暖かさも有します。

禄存星 ろくぞんせい (魅力本能の陽) (五徳は財)

親切でやさしくて人当たりが良いので人気を得やすい質をもちます。内面より外面が良くて愛情・奉仕の星ですが、一度裏切られると二度と温情をみせない面を持ちます。財を動かすのが上手で商才があります。

十大主星 ②

May-09

司禄星 しろくせい (魅力本能の陰) (五徳は財)

平和を好み、堅実で家庭的な星といわれ、努力をいとわない辛抱強さは蓄積となり、その永続性は周りの信用を得やすいのです。ただ実力を発揮するのに時間を要しますがその信頼は簡単には崩れないので不運を切り抜ける質ともなります。考え方は妻の如く現実的で損得の感覚に秀でます。

車騎星 しゃきせい (攻撃本能の陽) (五徳は官)

個人の行動力で前進力があります。自分の思いを直ぐ行動に移そうとする質をもちます。男性的な闘争心を持つために負けず嫌いで責任感が強くて、その行動に損得はなく一途です。動中の思考といわれ行動が必要です。

牽牛星 けんぎゅうせい (攻撃本能の陰) (五徳は官)

集団の行動力は団体や組織で発揮されます。統率・規則を重んじて真面目で名誉心が強いです。出処進退をわきまえるので逃げ上手にもみられます。

個人の才能を集団に和すための隠忍自重の精神力を養うためには歳月を必要としますが、それは集団を卒いる能力となります。女性は家庭的です。

龍高星 りゅうこうせい (習得本能の陽) (五徳は印)

改革の星といわれ伝統に縛られない知恵は好奇心が旺盛です。それは個性的な創作世界をつくります。現状にあきたらず変化を好む個性的な創造力は社会生活の向上の源になります。離別・放浪、外国の星といわれます。

玉堂星 ぎょくどうせい (習得本能の陰) (五徳は印)

学問の星といわれて頭を使うことが好きです。伝統的な分野における創造力・企画力に秀で、保守的で緻密で優雅です。子供や目下の面倒見が良く母性的で慈愛を有する星です。学者・研究者としての質を備えます。

に せいそうかんへんかほう
【二星相関変化法①】1回目

二つの星の組み合わせによって、その星の意味合いとか、
星の出方が少し変化します。

二つの星の組み合わせにより、二つの星の意味合い……または、
星の出方が少し変化する。

〔たとえば〕人体図に頑固な星〔貫索星〕をもっている
人でも、そのほか……人体図に何の星をもっているのか
によって、“頑固”の出方が少し変化します。

人体図に独立独歩の頑固星〔貫索星〕をもっているも、
割と物わかりのよい頑固な人もいますし、うんと意地を
張って強情な頑固な人もいます。

頑固という意味合いは変わらないのですが、その出方は
少しばかり変わることがあります。

参考：少し〔程度がわずか〕 多少〔多いか少ないかの程度〕

参考：出方〔出る様子・方法。ある事柄に対する対処のしかたの意〕

参考・頑固〔周囲の反対とか、情勢の変化などを無視して、自分の考えや態度を貫き
守ろうとするさまの意〕

参考・物わかり〔事情・状況、人の意見・立場などを理解する意〕

〔たとえば〕 ㊦さんという人物が〔家族に接するとき〕と〔他人に接するとき〕とでは、おなじ㊦さんですが、多少その出方は変わってきます。

あるいは、㊦さんが〔Bさんといるとき〕と〔Cさんといるとき〕とでは、彼がもつ本来の（性質・性格）出方が多少変化することがあるでしょう。

十大主星もそれとおなじように、〔たとえば〕人体図にある貫索星という星が、ほかの星との組み合わせによって、
じゃっかん
若干（ある程度）その意味合いが変わってきたりします。

そのような星の内面のうごきを観る【に せいそうかんへんかほう二星相関変化法】は、少し高度な技法といえます。

それゆえ、すこし難しいところもあると思いますが、二星変化法をつかうと、より詳しい性格判断ができます。

参考：変わる〔あるものが別の状態になる〕〔ふつうとは異なる状態になる〕

参考：意味合い〔ほかの事柄と関連のうえでの意味〕

参考：事柄〔ことすじみち。ことのありさま。事の内容〕

参考：内在〔ある事物・性質が異なるほかの内部に含まれている意〕

⇒【二星相関変化法^{にせいそうかんへんかほう}】を学びますが、少し高度な技法と
いうことを意識して進まれるとよいでしょう。

星と星の相関には《8つの決り事^{きまりごと}》があります。

その決り事である規則^{きそく}は、二星相関変化法だけの話では
ありません。

これから人体図^みを観ていくときにも、技法の基^{もと}になっ
ている規則^{たびたび}は度々出てきます。

【二星相関変化法】は《8つの決り事^{かなめ}》を要^{もと}にして、
作成されたのです。

《8つ》を覚える必要はありませんが、どのような規則な
のかを……大まかに理解しておくといよいでしょう。

参考：決り事〔従うべき規則〕〔きめられたもの〕

参考：規則〔それに基づいて、行われるように定めたきまり〕

参考：基〔物事の根本。根拠。〕

参考：法則〔必ず守らなければならないきまり。おきて〕

参考：要〔ある物事を支える最も重要な事柄〕

👉 規則は《8つ》あります。

規則《1》と《2》は一緒に説明します。

《1》（+と-）… 和（まとまりやすい）

《2》（+と+）… 反発（まとまりにくい）

こういう法則があります。

規則《1》 陽と陰の組み合わせ ⇒ 『和』が生まれます

規則《2》 陽と陽の組み合わせ
陰と陰の組み合わせ } 反発します

人体図をみたときに……いろいろな星が五星^{ごせい}あっても、
陽の星（陽星^{ようせい}）と 陰の星（陰星^{いんせい}）の二つのあいだに『和^わ』
できます。

陰陽の相関における、（陽）と（陰）の組み合わせは、男と女の
組み合わせのようにまとまります。

それゆえ『和』が生じるといっています。

星の（陽）と（陰）の組み合わせに『和が生じる』ので
まとまりやすいのです。

❖ 電気の性質は（+の電気）と（-の電気）があれば、
まとまって電流が滞^{とどこお}りなく円滑に流れます。

❖ （+の電荷）をもつものと（+の電荷）をもつものは
お互い^{たが}がまとまらないで反発します。

磁石も N 極同士だと反発します。

S 極同士だと反発します。

星と星のあいだでも『反発』の状態をつくります。

人体図をみたときに……いろいろな星が載^のっていますが、
陽の星（陽星^{ようせい}）と 陰の星（陰星^{いんせい}）の二つのあいだに『和』
ができます。⇒ 和が生じて、まとまりやすい

（陽星）と（陽星）二つのあいだに『反発』が起こりま
す。⇒ 反発が生じて、まとまりにくい

このように考えます。

規則《3》《4》《5》について述べます

人体図に載る十大主星は五星ごせいです。

十大主星それぞれの五行ごぎょう（木火土金水）は決まっていますから、人体図に載る星の関係は「相生」「相剋」「比和」のいずれかになります。

〔貫索星〕と〔石門星〕五行ごぎょうは木性もくせいです。

〔鳳閣星〕と〔調舒星〕五行は火性です。

〔祿存星〕と〔司祿星〕五行は土性です。

〔車騎星〕と〔牽牛星〕五行は金性です。

〔龍高星〕と〔玉堂星〕五行は水性です。

十大主星の各星かくせいは（陽）と（陰）の質しつも備えています。

〔貫索星〕	陽星 <small>ようせい</small>	〔石門星〕	陰星 <small>いんせい</small>
-------	------------------------	-------	------------------------

〔鳳閣星〕	陽星	〔調舒星〕	陰星
-------	----	-------	----

〔祿存星〕	陽星	〔司祿星〕	陰星
-------	----	-------	----

〔車騎星〕	陽星	〔牽牛星〕	陰星
-------	----	-------	----

〔龍高星〕	陽星	〔玉堂星〕	陰星
-------	----	-------	----

規則《3》「相剋」 動的現象
星同士が相剋になると動的現象

規則《4》「相生」 静的現象
星同士が相生になると静的現象

規則《5》「比和」 静止
星同士が比和だと静止する

順を追って説明します

規則《3》「相剋」 動的現象

「相剋」は、やっつけるような関係ということが基^{もと}でした。

(火^か剋^く金^{きん}) あるいは (金^{きん}剋^く木^{もく}) でも、星同士が相剋の組み合わせになっていて、(金^{こく}→×木) の相剋であれば、金性をものにたとえて刃物とすれば、木性を切ってやっつけてしまいます。

(火^{こく}→×金) の相剋であれば、火性は金性を溶解^{ようかい}してしまうことができる^と考えるわけです。 参考：溶解 [溶^とかす。溶^とけること]

星同士も「相剋」になっていると (相手をやっつけるような)

(星同士がケンカをしているような) そういう状態になります。
相剋は (→×) あるいは (剋) どちらでもよいのです。

自分の人体図のなかで（星同士がぶつかり合って、喧嘩^{けんか}している）という状態は、その星は『動的現象』を起こしていると考えerわけです。

動的は（じっとおとなしくしてられない）（落ち着いてはられない）状態です。

星と星がケンカしていますから、人間でいえば感情的にもなりますし、精神機能も活発になります。

このような星の姿を『動的』と表現しています。

「相剋」 動的現象 ⇒ 活発になる・感情的になる



かつとう しょう
葛藤が生ずる

参考：葛藤 [心のなかで違った方向の力と力が衝突しあっている状態]

[心理状態がせめぎ合うこと。] [もつれ。いざこざ。悶着。争い。]

自分の人体図に「相剋」の組み合わせがあれば、人間の心^{うち}の中では、星と星が活発にうごいて、ケンカしているようなものです。つまり星の動的現象によって、自分の精神状態が興奮して、活動的になっていると考えerわけです。このような精神のうごきがあると葛藤を生じます。

参考：生ずる [ある作用や事態が起こる。発生する。]

☞ 人体図に「^{じゅっだいしゅせい}十大主星」は^{ごせい}五星でできます。

「相剋」の組み合わせが人体図にいくつもある。という人物もいます。相剋がいくつもあると、星と星が活発にうごきますから、星のもつ意味とは別に、^{うち}こころの内は感情的で葛藤が多くなる人です。

参考：意味〔特に言語表現によって表される内容〕

参考：感情〔物事を感じて起こる気持ち〕

参考：感情的〔理性を失って感情にとらわれるさま〕〔感情を表して興奮するさま〕

☞ 「相剋」が（良いとか）（悪いとか）論じていません。

☞ ^{かつとう}葛藤の^{ようそう}様相はさまざまです。様相〔ありさま。状態。すがた。〕

☞ つぎのページの人体図をノートなどに書き取って、相生の印（—→）と相剋の印（—×→）を^か描き加えるとよいでしょう。練習です。

〔たとえば〕禄存星があれば……人体図の横線・縦線の^{わく}枠を描いて、その枠内に禄存星の禄の一字を記入するだけです。ご自分でわかればよいのです。

✽ ウォルト・ディズニー 1901-12-5

	禄存星	天庫星
石門星	牽牛星	鳳閣星
天将星	石門星	天報星

	禄	庫
石	牽	鳳
将	石	報

✽ フィンセント・ファン・ゴッホ 1853-3-30

	牽牛星	天印星
禄存星	玉堂星 <small>帰星</small>	調舒星 <small>始星</small>
天胡星	玉堂星 <small>帰星</small>	天恍星

	牽	印
禄	玉 <small>帰星</small>	調 <small>始星</small>
胡	玉 <small>帰星</small>	恍

✽ 本田宗一郎（ホンダの創業者） 1906-11-17

	調舒星	天貴星
車騎星	石門星	禄存星
天堂星	禄存星	天極星

	調	貴
車	石	禄
堂	禄	極

* 麻原彰晃 1955-3-2

	調舒星	天印星		
車騎星	鳳閣星	牽牛星	車	鳳
天南星	車騎星	天胡星	南	車

人体図をみると、相剋だらけの宿命という人もいます。

(良いとか、悪いとか、論じていません)

そういう人体図の人であれば、感情的になりやすく……

心の中に葛藤が多い人物と考えます。

そのように占うことになるわけです。

読者の方が「なにかを創作しようとするとき」葛藤が生まれるの
ではありませんか……その作品は葛藤の結晶といえるでしょう。

「鬼滅の刃」葛藤を描いたエンターテインメント作品です。

映画も小説も歌も……作品の中心になっているのは葛藤の世界

といえるでしょう。男と女の「絆」その演歌は葛藤です。

参考：絆 [断つにしのびない結びつき。離れがたい情実・気持ち]

規則《4》「相生」についてです

相生は静的現象です。

「相生」 静的現象 ⇒ 鎮^{しず}まる
↓
落ち着く

「相生」は助けるような関係ですから、性格や気持ちが落ち着くと考えます。

参考・性格〔各個人に特有の、ある程度持続的は感情や性質〕

ふつう……人間は他人^{ひと}に助けてもらったとか、あるいは、自分が他人^{ひと}を助けたり、友人・知人と助け合ったりすると、心が穏^{おだ}やかになり、落ち着いてくるでしょう。

気持ちも鎮^{しず}まるはずです。心にやすらぎを感じるという現象が起るはずです。

星のうごきもおなじです。

人体図に相生関係がいくつもあるような人物は、人柄がもの静かで落ち着きがある人。気持ちにゆとりがある。というふうに……占うことができます。

規則《5》「比和」についてです

静止せいしと書きましたように、「相生」「相剋」のいずれでもないわけです。

「比和」ひわ 静止せいし ⇒ 動的どうてき・静的せいてきのいずれでもない



ただ単たんにその本能が強まる

比和の場合は（心が鎮静ちんせいする）とか（心が活発になる）そのどちらも起きません。

「比和」というのは“単にその本能が強まる”と考えて頂ければよいのです。

人体図のなかにおなじ本能の星がいくつもあれば、当然ですが、その本能は強まります。

🔍復習⇒【初年】5回目【生剋比論しょうこくひろん】に記述がありました。

貫索星が二つあるとか、おなじ五行の貫索星（陽）と石門星（陰）があるとか、このようにおなじ本能同士の組み合わせが「比和」です。貫索星と石門星は「習得本能」の星です。五行は木性です。

☞ チョット難しいかも知れません。

「相生」「相剋」「比和」の星同士のあいだに『通関』^{つうかん}という関係があります。

『通関』^{つうかん}ぜひ覚えて頂きたいのです。

『通関』は、これからたびたび出てきますが、占いをするうえで必要になります。

通関の役割は「相剋」を「相生」へ^{へんかん}変換するものと考えてもよいでしょう。(相剋を相生に^か変えるもの)

相剋関係の星のあいだに入って、相剋の状態を^{やわ}和らげるものです。

相剋関係の星のあいだに入って、相剋をやわらげるもの。

^{つうかん}
通関の役割を担う星を^{にな ほし つうかんせい}通関星と言ったりしますが、通関と覚えておいていただきたいのです。

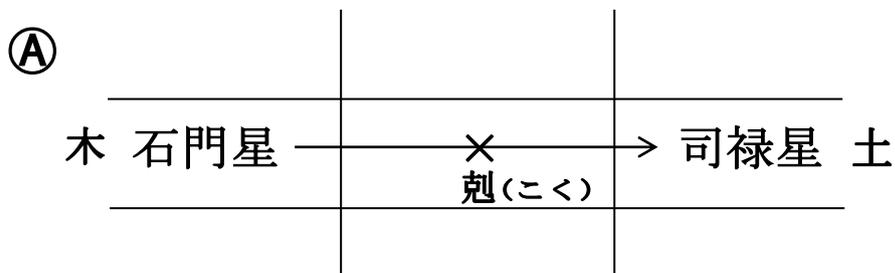
通関はこれから^{たびたび}度々でてきます。

上級になるほどつかうようになりますから、通関という言葉と意味を覚えてください。

参考：関係 [二つ以上の物事が互いにかかわりあうこと]

参考：変換 [ある事柄・事態がそっくり別の事柄・事態に変わる。変えること]

〔たとえば〕人体図に〔石門星〕と〔司禄星〕をもっている人がいるとします。



五行でいえば、石門星は木性です。司禄星は土性です。

この二つの星は（木→×土）で相剋関係になります。

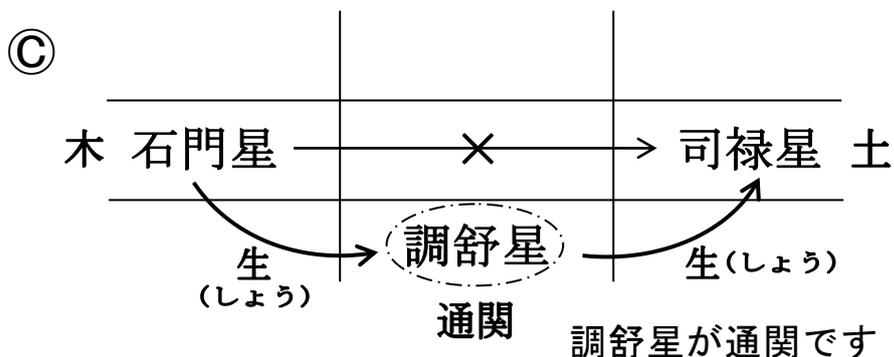
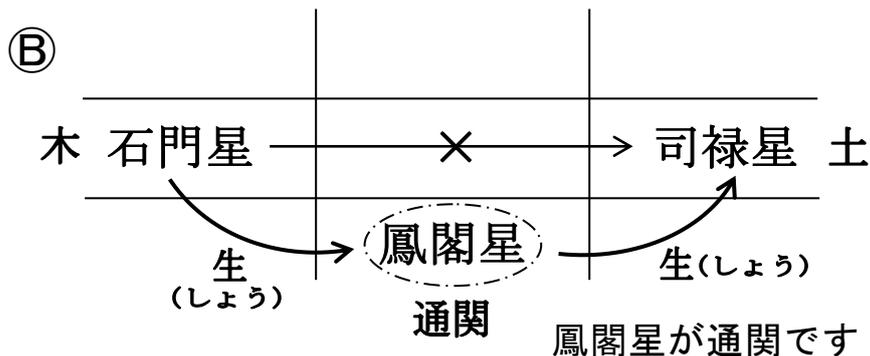
相剋は二つの星が対立して、^{おか}侵しあう相剋の姿ですが、（木→×土）の相剋関係は、樹木が土中へ根っこを張り巡らして、土の養分や水分を奪う姿です。

人体図 ① の〔石門星〕と〔司禄星〕は相剋関係です。

相剋は両星が^{りょうせい}活発になり^{かっぱつ}ますので、相剋関係を人体図にもつ人物は、心の働きとか、感情のうごきが高まるともいえます。

参考：高まる〔ある感情や気持ちの度合い・程度が次第に強く、または激しくなる〕

参考：活発〔勢いのよ良さ〕



人体図 ② の相剋のとき、どこかに「鳳閣星」があれば、
 (木_生→火) と「石門星」が「鳳閣星」を生じて、つぎに
 (火→土) と「鳳閣星」が「司禄星」を生じていきます。
 つまり (木_剋→土) という相剋関係のあいだに、火性
 が入ることによって、(木→火) と木が燃えて火になり、
 火炎によって燃え尽きた燃殻^{もえがら}は (火→土) と土になる。
 という相生関係に変わってしまうわけです。

②「鳳閣星」は火性の(陽)であり、③「調舒星」は火性の(陰)
 です。五行はおなじ火性ですから、どちらも通関になります。

「鳳」あるいは「調」が(生^{しょう})の役割をして通関になります。

㊸と㊹の人体図において、「石門星」あるいは「司祿星」が、人体図のどの場所にあっても構いません。

「鳳閣星」か「調舒星」の火性があれば通関です。

ご理解いただけましたか……。

⇒ ここでは「十大主星」ではなくて、五行で「相剋」を書きます。

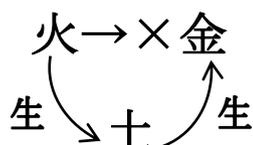
㊸ (火→×金) という相剋があるとします。

(火が金性を溶かしてしまふ相剋) です。

このときに、火性と金性のあいだに入り込んで、火と金の関係を相生関係に変えてくれる五行は 土性 です。

(火→土→金)

火と金の相剋関係の人体図に、土性の星があれば……



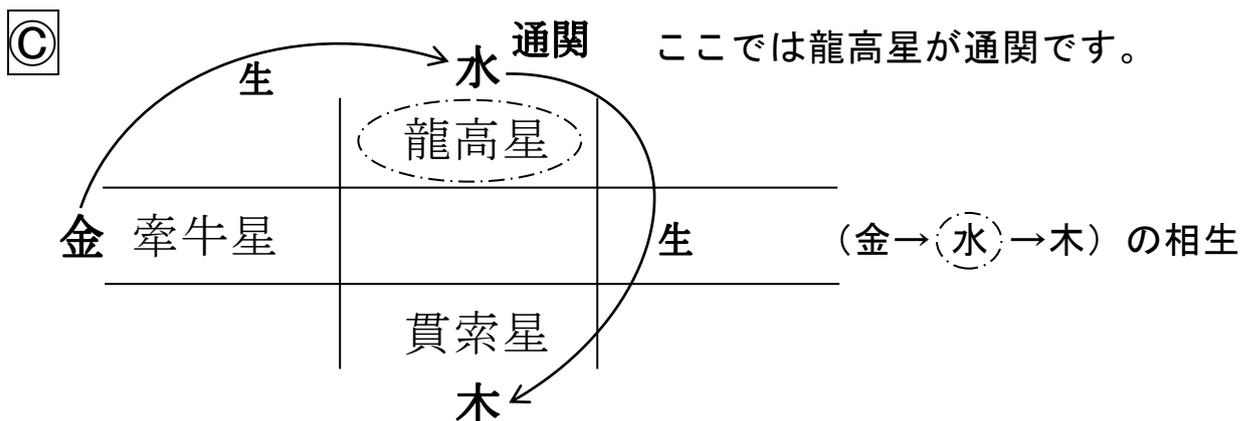
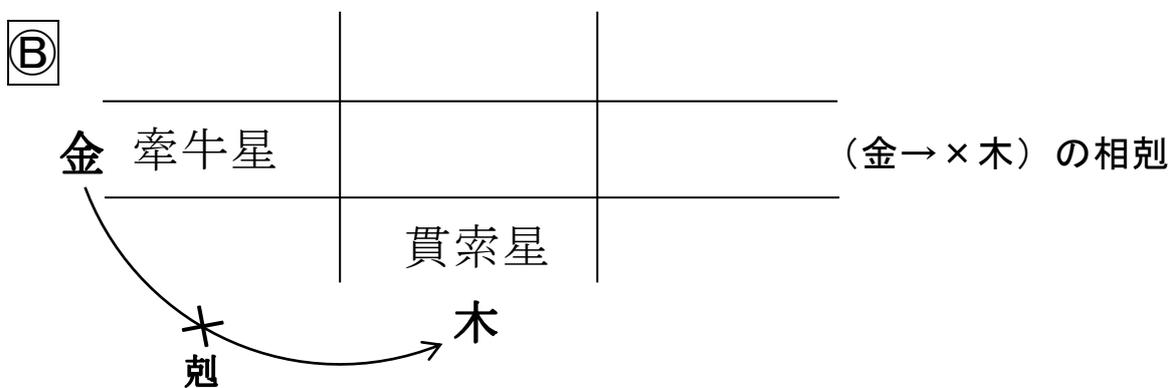
(火→土) そして (土→金) というように、(火と土と金) 三つの関係が相生で結ばれます。

(火→×金) の相剋関係に土性が入り込むことによって、

(火→土) (土→金) の相生関係に変わってしまいます。
 この状況は、まるで (金性をやっつけている……ケンカしているようなところ) へ 土性 ^{ちゅうさい} が仲裁に入ってきて、二人を仲直りさせる。この役割を担^{にな}うのが通関です。
 1つの相剋関係を和らげるには、必ず1つの通関が必要です。

そうしますと、(金→×木) の相剋関係は、金性が木性を切ったり、傷つけたりして、木性をやっつけてしまいます。

Ⓑ (金→×木) という相剋の場合、なにが通関になるのかといえば水性です。⇒ [龍高星] か [玉堂星] で Ⓒ になります。



「相生関係」と「相剋関係」の成り立ちについては……
 ぴんと来ない生徒さんもおられるでしょう。

参考：ぴんと来る〔示された言葉などから、直感的・瞬間的に背後の意味を感じとる〕

Ⓑ（金→×木）の相剋のときに、Ⓒのように龍高星の水性があると、（金→水）（水→木）と相生になります。

ここでの相剋は〔龍高星〕または〔玉堂星〕という五行水性の星が通関になってくれます。

つまり（金→×木）の相剋関係を（金性が水を生み出して、水が木を育てる）という相生関係に変えてくれます。

通関はこのような仲介の働きをしてくれます。

「どの相剋」も、必ず1種類の通関になる星は存在します。しかし……人体図に通関の星がある人もいれば、通関の星がない人もいます。これは個々の人体図によって異なります。

通関の観方は、後でまた出てきますが、人体図に通関が

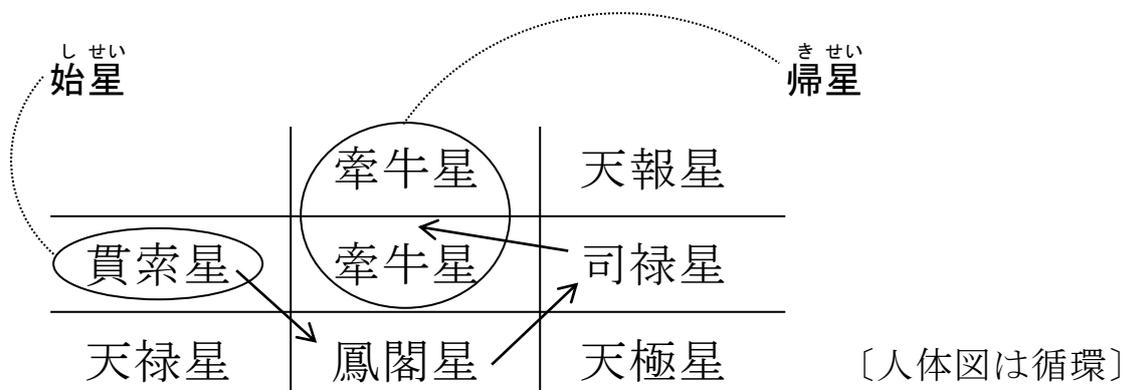
（ある）（ない）を見極めることで、相剋の強弱の程度を

測ることができます。この人は通関があるから「強い相剋ではなくて弱い相剋」だとか、この人体図は通関がないから「相剋

が強い」とか、そのように観ていくようになります。

『通関』という言葉と意味合いを、ぜひ覚えておいて頂きたいのです。

* マリリン・モンロー 1926-6-1



マリリンについては【人体図純濁法】にも出てきました。

ここでは『通関』についてですが、(木→火→土→金) というように、この人体図は相剋する星はないので星が循環じゅんかんします。木性の〔貫索星〕からはじまって〔鳳閣星〕と〔司禄星〕を通過して〔牽牛星〕で止まっています。

この人体図で通関の役割を果たしているのは〔司禄星〕です。

〔司禄星・土性〕がなければ、星が循環しないために、名誉の星〔牽牛星〕へたどり着けません。

マリリン・モンローが大女優ということであれば名誉です。

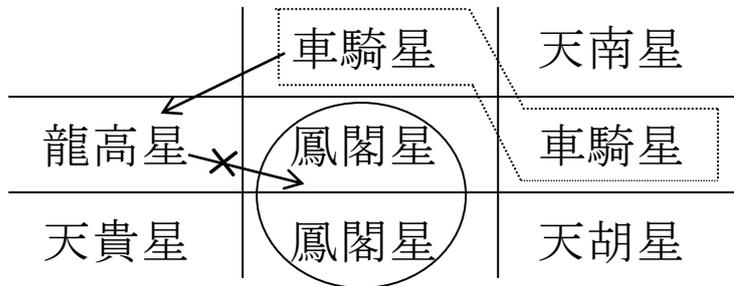
彼女の人生の目標は「名誉・名声」であったといえます。

算命学は……人体図のなかで始まる星を〔始星〕とといいます。

人体図のなかで止まる星を〔帰星〕とといいます。

＊〔チャゲ&アスカ〕 アスカ（宮崎重明） 1958-2-24

アスカの人体図



通関となる ^{五行は土性}〔禄存〕か ^{五行は土性}〔司禄〕あれば（火→土→金→水）と星は循環しますが、アスカの人体図に土性はないです。彼が舞台上で動きまわるパフォーマンスは〔車騎星〕です。この人体図には「水火の激突」という、^{水性}〔龍〕と ^{火性}〔鳳〕の七殺があります。アスカの ^{かつとう}葛藤で歌の原点です。

「マリリン・モンロー」 「メーガン妃」 「アスカ」
3人の人体図を書きました。

そして『通関』ということで話を進めてきました。

これらの星の用法は……^{あとあと}後々出てきます。

それを学んでいくうちに、理解できるようになります。

参考：葛藤〔心のなかで違った方向の力と力が衝突しあっている状態〕

〔心のなかで相反する欲求・感情がからみあう心理状態〕

『通関』について……ひととおりの説明はここで終わります。

規則《5》に「比和する星は静止する」との記述がありました。

ここからは

規則《6》についてです

規則《6》 { 「比和」 ^{どうせい}同星
「比和」 ^{いんよう}陰陽

おなじ「比和」でも、比和で^{どうせい}同星の場合と、比和で^{いんよう}陰陽の場合があります。

このように、二つの分け方があります。

そこには、つぎの規則があります。

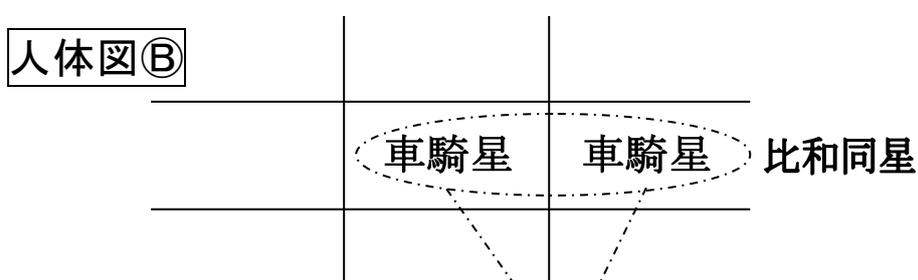
「比和」同星〔貫索星の性質が少し加わる〕

「比和」陰陽〔石門星の性質が少し加わる〕

つぎの頁に…… 人体図① と 人体図② を書きました。



〔車騎星〕は人体図のどの場所あっても構いません。
 理解しやすいように、① ②のどちらも〔車騎星〕が主星
 になっていますが……②のほうには〔車騎星〕が2個あり
 ますから比和同星ひわどうせいの姿です。



ここに貫索星の質（頑固）が加わる

人体図②は比和です。

〔車騎星〕〔車騎星〕という同星どうせい（おなじ星）があります。
 ②のように、複数の同星があると、ここには〔貫索星〕が
 もつ質《頑固さ》が加わります。
 つまり、人体図に同星がいくつもあると、頑固な人物に
 なっていくわけです。

⑥の人体図には〔車騎星〕が2つあります。

〔たとえば〕車騎星が3つあるとか、4つもあるとか、おなじ星がいくつもある人体図の人物もいるわけです。

あるいは〔禄存星〕がいくつもある人体図

〔鳳閣星〕がいくつもある人体図の人もいます。

人体図におなじ星がいくつもあるということは、おなじ性質の星ばかりが重なるわけです。

（その星の質が倍加する）（その星の質が強固になる）ともいえますし、（星の質がしっかりした状態になるので頑かたくなになる）ともいえます。 参考：頑かたくな〔なかなか考えを変えないさま〕

それゆえ“頑固がんこ”という質が加わることになります。

どの十大主星もおなじです。加わります。

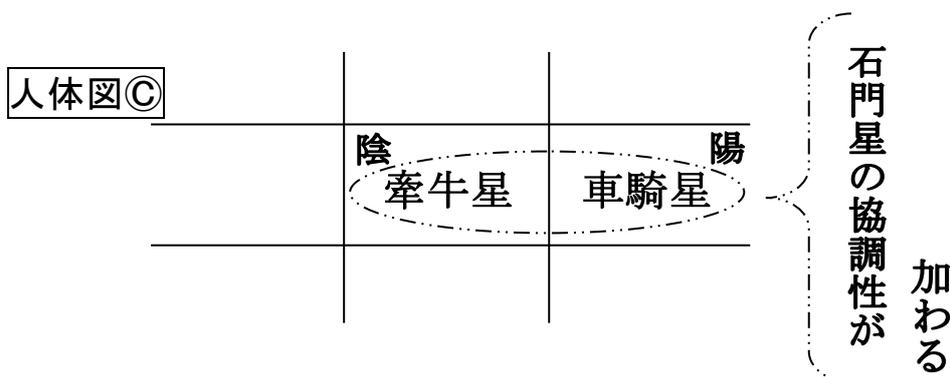
〔たとえば〕鳳閣星は“穏おだやかで自然体の星”なわけですが、〔鳳閣星〕がいくつもある人体図というのは、

（穏やかな鳳閣星がここにある）（穏やかな星がここにもある）（ここにも穏やかな鳳閣星がある）というふうに、いくつもの穏やかな星が重なっていると、“その質にこだわる”というか“その質に固執こしつする”というか、それなりに頑固な人になっていきます。確かに〔鳳閣星〕は穏やかなのですが、

(うんと穏やか) (いつも穏やか)だとしたら、それはそれで
 “頑固な” という意味にもなってくるわけです。

つまり、人体図に同星が複数あるとすれば、〔貫索星〕の
 もつ “頑固さ” が少し加わります。

人体図③の〔牽牛星〕と〔車騎星〕はおなじ五行の金性
 ですから「比和」です。この関係は（陰）と（陽）です。
 陰星と陽星の場合は、〔石門星〕の協調性が加わります。



🔍 復習 07 頁 ⇒ 📖 規則は《8つ》あります。

《1》（+と-）… 和（まとまりやすい）
 《2》（+と+）… 反発（まとまりにくい） } 法則がありました

→ 《1》は（-と+）のあいだに『和』が生じます。

人体図③〔牽牛星〕と〔車騎星〕の「比和」の関係は（陰）と（陽）
 のですから、相和す（^{あいわ}互いに仲良くする）ことになります。

〔牽牛星〕と〔車騎星〕の「比和」の関係は（陰）と（陽）です。……そこには“協調性”が生しょうずるわけです。つまり、自分のなかで“誰かと和合してまとまろう”とする質が加わります。

それゆえ、他人と協和して交際するとか、仲間とは協調してゆくような人物になります。

そういう意味になります。

参考：生ずる〔ある作用や事態が起こる。発生する。〕

参考：協調〔互いに力を合わせて助けあうこと〕

参考：協和〔互いに心を合わせて仲良くすること〕

07頁… 規則は《8つ》あります ということでした。

そして 規則《1》～ 規則《6》までは説明しました。

これから学ぶ ⇒ 規則《7》と《8》の「相剋」については、
すでに勉強した《1》《2》の（続き）とおもってください。

規則《1》（+と-）… 和（まとまりやすい）陰陽が異なる同士の間剋

規則《2》（+と+）… 反発（まとまりにくい）おなじ陰陽同士の間剋

それでは……

規則《7》と《8》の「相剋」についてです

規則《7》（陰）と（陽）の間剋 } 弱い間剋

規則《8》（陰）と（陰）の間剋 } 強い間剋
（陽）と（陽）の間剋

「相剋」は上記のように < 弱い間剋 / 強い間剋 > 二種類の間剋があります。

規則《1》（+と-）⇒ 和（まとまりやすい）陰陽が異なる同士の間
陰と陽が異なる同士の間は、二つの星がまとまろうとする性質
の『和』ができていますから、強い相剋にはならないのです。
それゆえ（陰）と（陽）の間の場合は「弱い相剋」というふう
に考えます。それが規則《1》（+と-）です。

規則《2》（+と+）⇒ 反発（まとまりにくい）おなじ陰陽同士の間
（-と-）⇒ 反発（まとまりにくい）おなじ陰陽同士の間
相剋は 規則《2》のように（陰同士の相剋）（陽同士の相剋）が
あるわけです。

（陰と陰）（陽と陽）の関係は、磁石のように反発が生ずるので
まとまりにくい・まとまらないわけです。

そのように反発が生じたところに……「相剋」が加わってくると、
かなり強い相剋関係になります。

〔車騎星〕は（陽星）の五行金性です。

〔貫索星〕は（陽星）の五行木性です。

〔車騎星（陽）〕と〔貫索星（陽）〕は、（陽）と（陽）の
相剋関係で（金→×木）の姿です。

（陽）の金性が（陽）の木性をやっつける関係です。

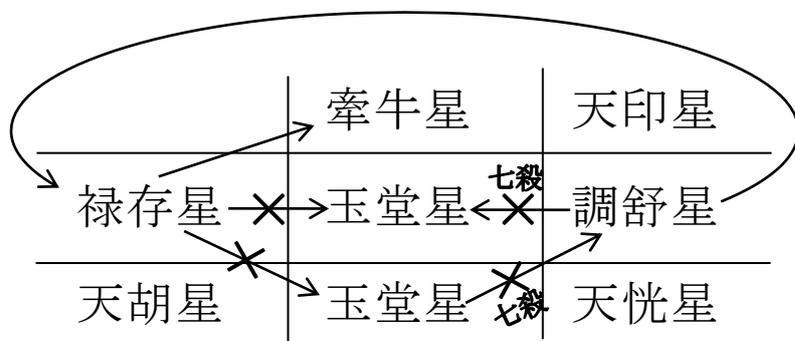
重複してもうしあげますが、〔車騎星(陽)〕と〔貫索星(陽)〕は(+)と(+)で、反発が生じています。

反発しているのに「相剋」 になっていますから、反発と相剋の度合いが“とても強い”ということです。

〔(+)と(+)] あるいは 〔(-)と(-)] ⇒ 反発が生じていたのに、それに加えて 〔(陰星)と(陰星)] あるいは 〔(陽星)と(陽星)] の十大主星になると“相剋の度合いがとても強く” なります。

宿命(1) ゴッホ

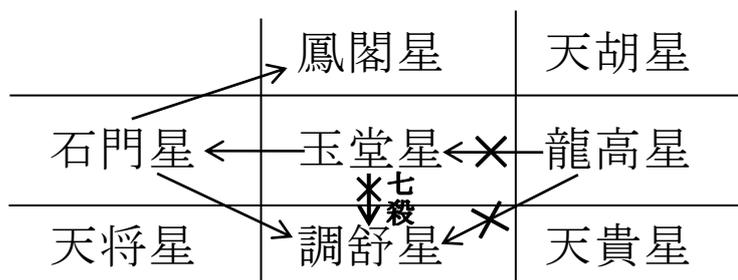
* フィンセント・ファン・ゴッホ 1853-3-30



玉堂星と調舒星は相剋です。そして、陰星と陰星なので、相剋の度合いが強くなる。七殺が2つある。

宿命(2) タモリ

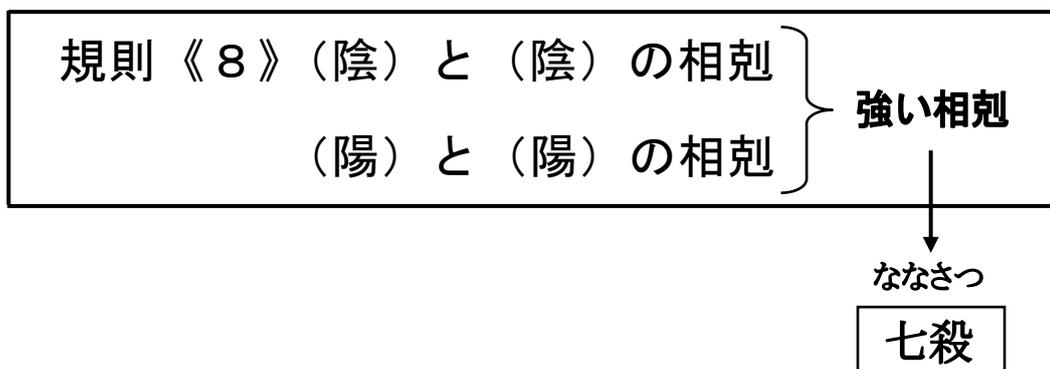
* タモリ 1945-8-22



玉堂星と調舒星は相剋です。そして、陰星と陰星なので、相剋の度合いが強くなる。(水剋火) 七殺が1つある。

🐣 ここで覚えていただきたい名称があります。

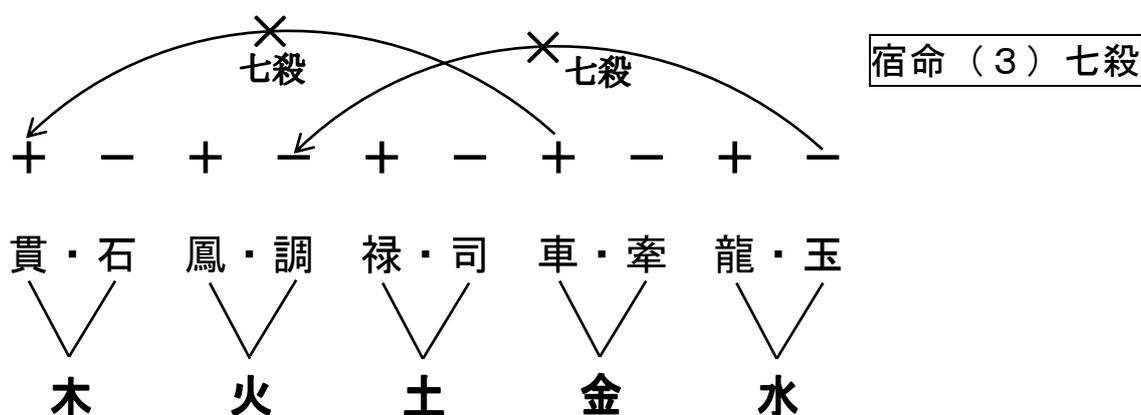
「^{はげ}烈しい相剋」を算命学で「七殺^{ななさつ}」といいます。



七殺については、十大主星の頭の一文字だけ、10個を並べて書いて説明しますので、おなじようにノートなどに書いていただきたいのです。🐣 **覚えるための練習です。**

「七殺^{ななさつ}」占うときにつかうことになります。

十大主星を横書きに順番に書きます（縦書きもおなじです）。



十干は（陽陰）で二個ずつ、五行（木火土金水）の順番に並んでいます。^{なら}

宿命（3）七殺 をみると、左から〔貫索星〕〔石門星〕木性です。

そのつぎは〔鳳閣星〕〔調舒星〕火性です。

陽と陰でいえば、左から $(+ -)$ $(+ -)$ $(+ -)$ $(+ -)$ $(+ -)$
木 火 土 金 水

の順に並んでいます。

そうしますと、相剋される1つの星が、どの星から強く相剋（七殺）されるのかということになります。

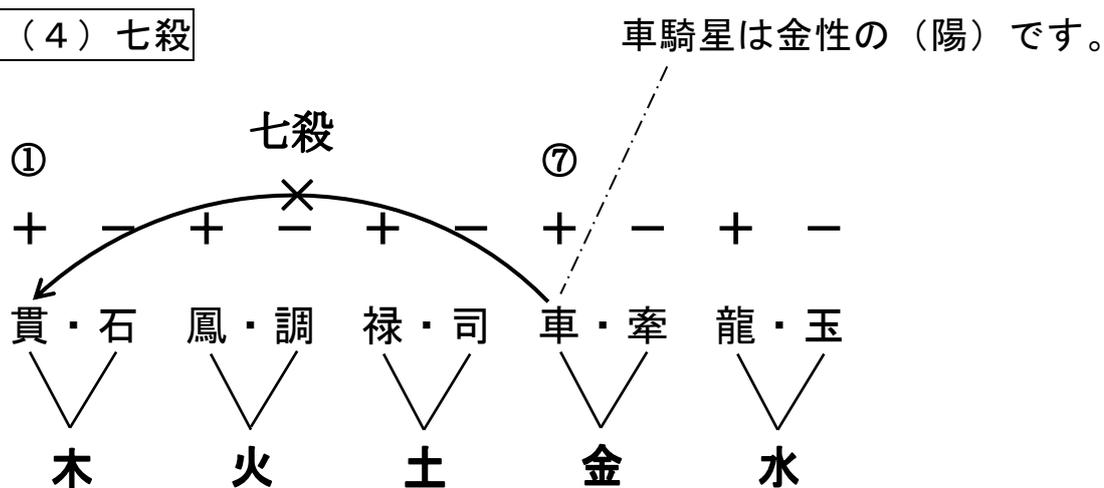
「七殺される星」をみるときは……貫索星であれば、

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ …… 左から⑦番目が車騎星です。

〔貫索星〕から七番目の〔車騎星〕に相剋されるときは、必ず、強い相剋になっています。 **これは法則です**

七番目の星に剋くされるときは、必ず^{はげ}烈しい相剋になっている。

宿命（4）七殺



車騎星が貫索星を（金→×木）と剋くしますが、貫索星は木性の（陽）です。（陽と陽）の相剋になっています。

七番目のものに、剋くされるときは、必ず、おなじ陰陽の相剋になります。

この相剋の状態を特別に七殺^{ななざつ}といっています。

「七番目のものに殺^{ころ}される」という意味から「七殺」と名付けられたわけです。

おなじ相剋でも〔たとえば〕金性の牽牛星は（陰）です。牽牛星も（金→×木）と貫索星（陽）を剋しますが、この場合は（陰）と（陽）の相剋ですから、烈^{はげ}しい相剋ではないです。

陰と陽のあいだに『和』が生じます。

あるいは……車騎星が（金→×木）と、石門星を剋しても七番目ではないので、強い相剋になりません。

①車騎星から6番目は、⑥石門星になります。

つまり、①車騎星 ②牽牛星 ③龍高星 ④玉堂星 ⑤貫索星 ⑥石門星

七番目のものに剋くされるときだけ（陽と陽）（陰と陰）の烈しい相剋を受けることになります。

それで「七殺」という名称がついています。

「七殺」になっていると、相剋が^{はげ}激しすぎるために……
その星がもつ意味合いが^{まっとう}真っ当に出なくなります。
星と星が^ま真^{こう}っ向から衝突するような、激しい星のぶつかり
合いですから、星の意味合いが出にくくなるのです。

「相剋」はやっつけるような関係ですが、そのなかにお
いて七殺は1番強い相剋です。

〔たとえば〕人体図に車騎星と貫索星をもっていれば、
「この人物は貫索星があるから“頑固”ですね」という
ふうに通常は^み観ます。

しかし……七殺されている貫索星ですから、この人物の
“頑固さ”がストレートに出なくなるのです。

七殺の相剋は、その星がもっている質が^{まっとう}真っ当に出なく
なりますから、そのことを頭の片隅において占っていく
ようになります。 参考：真っ当〔まともなさま。きちんとしている〕

☞ “^{まっとう}真っ当に出なくなる”それは具体的にどうゆう状態
なのかについては、いくつかを例に^{れい}して説明します。

説明は40頁からです

「七殺は烈しい相剋なので、その星の質が出にくくなる」
いいましたが、もう少し意味を付け加えます。

「七殺される側のほうが、より出にくくなります」

(金→×木)の相剋は、木性の貫索星が七殺されている側
です。やっつけられる側の星は壊こわされてしまいます。
そうすると“星がもつ質が崩くずれてしまう”ことになりま
す。強烈な相剋ですから、その星がもつ意味合いが破壊
されます。

あるいは、(水→×火)の相剋だと、調舒星がもっている
質の良さが真まつ当とうに(真正面から)出なくなるとか、調舒星が
もつ性質の出方が不自然でぎこちなくなり、滑なめらかに出
せないとか、そういうふうになってしまいます。

ここまでの勉強は「通関」と「七殺」という2つの事柄
を頭に入れておいてください。

「七殺」一番強烈な相剋。

「通関」相剋をやわらげてくれる。

参考：端的〔てっとりばやく要点をとらえていえば〕

参考：質〔事物の成立するもと。内容。中味。価値〕

参考：崩れる〔安定していた状態が乱れる〕〔自らもつチカラを失って壊れる〕

👉 規則は《8つ》あります ということで、7頁から話しを進めてきました。

👉👉 つぎに【に せいそうかんへんかほう二星相関変化法】による星の組み合わせは〔55種類〕あります。

その組み合わせ〔55種類〕をもうら網羅すると、かなりの時間をよう要することになります。

そこで「星と星の組み合わせは……このように考えてゆきます」という説明をします。

その考え方を理解していただければ大丈夫です。

👉 星の組み合わせに **番号** を書き加えましたが、〔55種類〕の順番ではありません。

まずは **1** 貫索星と貫索星……この組み合わせから説明してゆきますが、**1** **2** **3** などの番号は、55種類の順番を示す番号ではありません。

わかりやすくするための番号です

べんぎじょう便宜上の番号ということをご了承ください。

参考：網羅〔関係あるものをもらすことなく、すべてとり入れること〕

参考：便宜上〔当座の処理に役立てるさま〕

1 貫索星と貫索星

	第四	
	貫索星	
		貫索星 第三

人体図に貫索星が2つある人は〔貫索星〕と〔貫索星〕の組み合わせをもっているということです。

頑固な星が2つありますから“より一層頑固になる”と考えればよいのです。

その星の意味合いが倍加ばいかするということです。

同星どうせいが2つある。これはわかりやすいです。

おなじ星が複数あると「その星の意味合いや本能が強まる」と考えればよいのです。

・ 集団くみに与することなく、外見は利己主義的。

集団くみに与しにくい、外見は利己主義的、という意味があります。これは貫索星本来の特徴です。

参考：倍加〔倍にふえること〕 参考：与する〔仲間となり加勢する。協力する。〕

参考：利己主義〔自分だけの利益・幸福・快樂を求めて、他人を考慮しない。〕

貫索星は、何事も自分^{ひと}独りで行おうとする星です。

本能は守備本能ですから、自分を守ろうとする本能がより強くなります。

それゆえ、周りからは自分勝手な人というふうに見られやすいのです。

まるで利己主義のようにおもえる人物。

という意味になります。

2 貫索星と石門星

	石門星 主星	貫索星 第三
--	-----------	--------

・ 孤独を保ちながら集団に入る

「孤独を保ちながら集団に入る」その孤独の質というのは貫索星です。集団に入るのは石門星の質です。

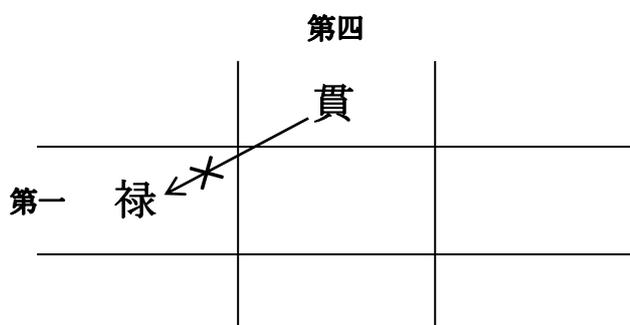
貫索星と石門星は（陽）と（陰）の組み合わせなので、二つの星の意味合いがまとまるわけです。

つまり『和』が生じます。

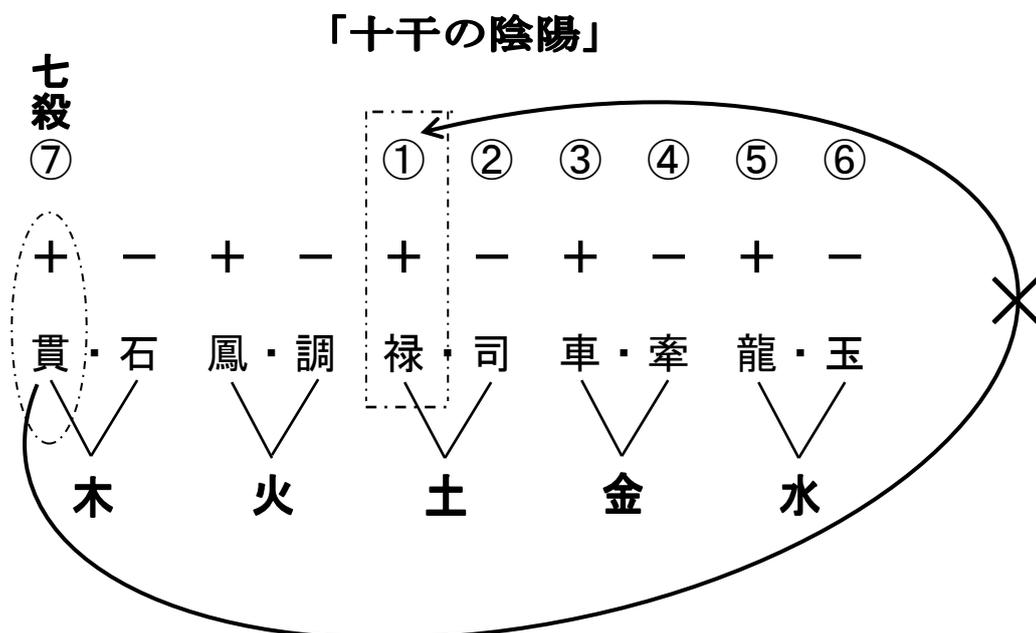
それゆえ「孤独を保ちながら集団に入る」といえますし、「集団に入っても個人を見失わない」ともいえます。

貫索星は単独行動の質、石門星は協調性の質……どちらの意味合いも、両方同時に出ますよ。ということです。

3 貫索星と禄存星



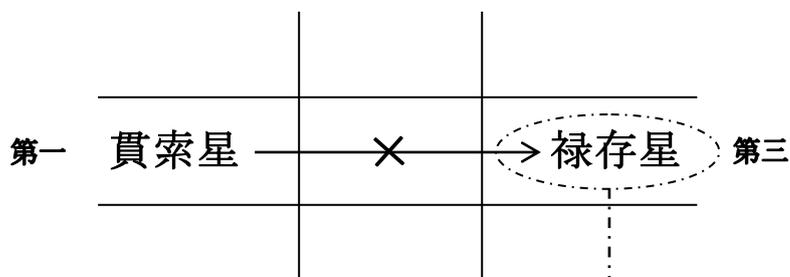
(木→×土) と相剋ですけど、(陽星) と (陽星) なので
ななさつ
 七殺の相剋です。



禄存星がどの星に「七殺」されるのかを、「十干の陰陽」で
 見てください。禄存星から数えて七番目をさがしました。

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ の〔玉堂星〕にきたら、貫索星（木性）に
 もどります。 ⑦番目が貫索星です。

「十干の陰陽」をみておわかりのように…… 貫索星が禄存星を
 (木→×土) と相剋すると七殺です。非常に強い相剋です。



(禄存星の質が七殺されて、スツと出せなくなる)

貫索星と禄存星の関係は……貫索星から烈しく剋くされる
 禄存星のほうをやっつけられます。

もともと禄存星は親切で優しい星ですが、人体図に貫索
 星と禄存星があると、七殺によって禄存星の性質が壊さ
 れてしまうわけです。

本来は親切で優しい人なのですが、その質を円滑に出な
 くなる。ということが起こります。

人体図に禄存星もっていても、貫索星があると親切で優
 しくするにも、チョットぎこちない親切、不自然なやさ
 しさになってしまいます。

参考：円滑 [なめらかなこと。物事がとどこおりなく、すらすらといくこと。]

「他人になにかしてあげる」という親切を、自然な姿で
発揮できなくなります。

本質的に親切なのですが、動作やしぐさが、たどたどしくなってしまうために「見せかけのやさしさよね」と、おもわれてしまうのです。

参考：自然〔本来の質が破壊されたり、ゆがめられたりしていない状態〕

演技や腹芸をする人となる。

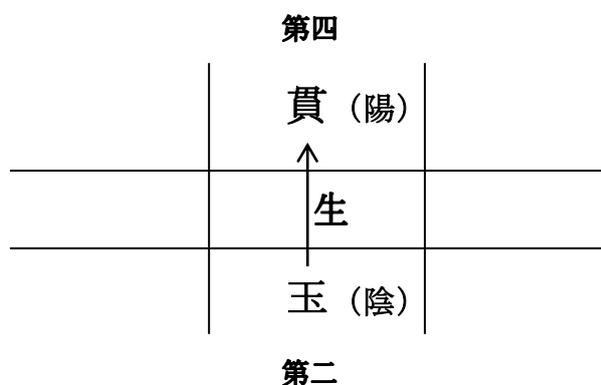
せっかく人に親切にしてあげても（あの人って下心あり
そうよ）と勘ぐられて、せっかくの親切心が相手に素直に伝わりにくい人になります。

本人はそんなつもりはないのですが、演技や腹芸をする人に見られてしまう。そのような意味合いになります。

〔貫索星〕と〔禄存星〕の「七殺」にかぎったことではなくて、ほかの星の組み合わせで七殺になっていたら、その星の意味合いが、スンナリ出せなくなるということです。

このように考えていくわけです。

4 貫索星と玉堂星



・ 思考と意志の連結が容易

第四命星の貫索星 (陽) と 第二命星の玉堂星 (陰) は……
守備本能と習得本能に『和』が生じます。

意思と思考の連結が容易よういです。

意思は貫索星のことで、思考というのは玉堂星のことです。

玉堂星は知恵の星ですから、なにかを考える……なにか
を学ぶことが好きで得意な星です。

貫索星は意志が強くて頑固な星です。

貫索星は五行木性です。 玉堂星は五行水性です。

+ 貫 (木) ←
 - 玉 (水) ←

相生

この二つの星は (水→木) です。
(陰) と (陽) の「相生」になっています。

第二命星の玉堂星が第四命星の貫索星を生じています。

ここでの考え方は……（陰）と（陽）の相生になっていますから、二つの星の性質がとてもよくまとまります。

・陰と陽で相生になると、二つの星の質が最もうまくまとまる。

陰と陽だけでも『和』が生じます。

それに加えて「相生関係」ですから、2つの星が1つの
ちょうわ
調和した状態になります。

（お互いの性質を損なうことなく調^{ととの}います）

（陰）と（陽）で相生になる場合には、星の性質がとても良くまとまります。

☞ この状態はちょうど「七殺」と反対です。

七殺はまとまらない星同士の相剋です。1番強い相剋関係なので、星の質・星のはたらきが真っ当に出なくなります。

貫索星は頑固な星です。 玉堂星が知恵の星です。

十 貫索星（木）…… 頑固

一 玉堂星（水）…… 知恵

参考：調和〔衝突などがなく、互いがほどよく和合すること。〕

「たとえば」つぎのようこともあるでしょう……。

「なにか問題があるとか」「なにか起こったとか」して、その事柄について、頭ではわかっているけど、気持ちのうえで（それに応じることはできないとか）（うまく行動できない）そのような状態といえます。

このように自分の内奥^{ないおう}（内部の深いところ）において、決心がつかないとか、裏腹^{うらはら}な結果がでてきたとかで、（どうしようと頭を抱えてしまう）そのようなときもあるでしょう。

ところが……玉堂星と貫索星が人体図にある人は、自分の頭で考えて描いた筋道^{すじみち}と、物事を成し遂げようとする思い^{おも}が一致しやすいのです。

それゆえ、思考回路の抵抗もなく、順調に事態^{じたい}を決められるといえます。

首尾^{しゅび}が一貫^{いっかん}しやすいともいえるでしょう。

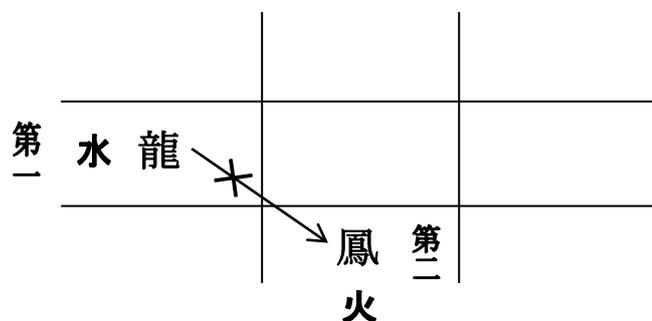
参考：裏腹^{あいはん}〔相反すること。あべこべ〕

参考：筋道〔物事を行う順序。事の道理〕

参考：事態〔物事のなりゆき〕

参考：首尾が一環〔考え方や態度などが始めから終わりまで一筋に貫いている〕

5 鳳閣星と龍高星



鳳閣星は火性の星で、龍高星は水性の星です。

算命学では、水と火の組み合わせを、つぎによろしい
ます。「^{すいか}水火の^{げきとつ}激突」と呼称^{こしょう}します。

「水火の激突」は非常に^{はげ}烈しい星のぶつかり合いです。

水火の激突 水の勢いが強ければ、火は消えてしまう。

火の勢いが強ければ、水は蒸発してしまう。

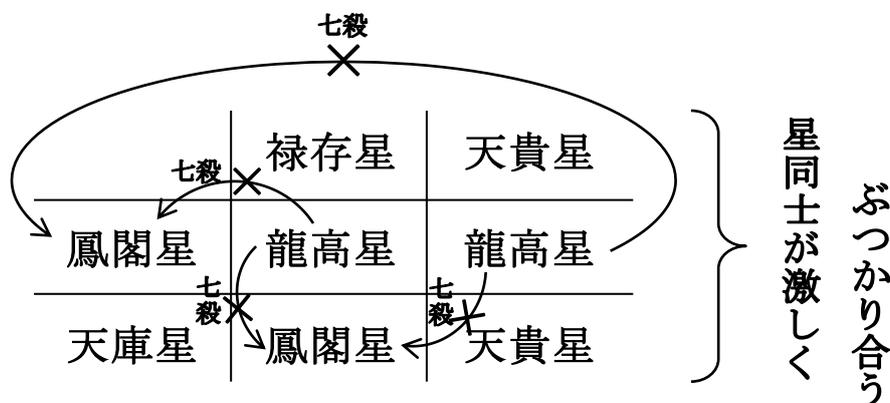
水の星と火の星の組み合わせを「水火の激突」といい、
〔龍高星・玉堂星は水〕〔鳳閣星・調舒星は火〕です。

それらの星が人体図のどの場所にあっても構いません。

火の星と水の星、この両方をもっていたら、この2星は
混ざり合うことができないで、^{きわ}極めてはげしく激突しま
す。そのように考えてください。極めて〔程度の極限を表す語〕

* 志村 けん 1950-2-20 [2020-3-30 没] 70 歳

宿命 (1) 志村けん



水と火は自然界のなかでも（水は冷たい）（火は熱い）というふうに、水と火の本来の性質は真逆^{まぎやく}です。

水と火は絶対に混ざり合うことができない正反対の組み合わせです。人体図は〔龍高星の水性2つ〕〔鳳閣星の火性2つ〕

〔4つ〕が水と火です。この激突は「彼の芸の基^{げい もとい}」です。

水と火を無理に混ぜようとする、火のほうが消えてしまうか、火のほうが強ければ、水は蒸発して霧散^{むさん}します。

人体図のなかで、星同士が激しくぶつかり合っていて、バチバチ火花を散らしている。それが心奥^{しんおう}で起こります。それは「水火の激突がある」という意味になります。

志村けんさんは、精神の葛藤が大きい人です。

精神の葛藤が大きい ⇒ それが芸となって表出する。

龍高星と鳳閣星の二つが混ざり合えず、激しくぶつかります。星同士の烈しいぶつかり合いが、心の内奥^{ないおう}で行われるようなものですから（こころが落ち着かない・落ち着いてはいられない……）なにかしらの葛藤が渦を巻いて内奥へ突きささり、葛藤がうねる心のもち主になるわけです。

「水火の激突」をもつ人はこころのうごきが複雑です。

内奥が複雑 → 感性が鋭い

水と火という、相反する質を自分の内面に備えていて、自分でもどっちが、自分の本心なのか、見極めるのが難しい、そのような複雑な心のもち主です。

それが（良いとか）（悪いとか）は論じていません。

感性が鋭い、敏感だから葛藤が起こるわけです。

つまり、いつも胸中に「水火の激突があつて」心の奥底^{おくてい}で火花を散らして、ピリピリしているような、組み合わせをもっています。感性は鋭敏^{えいびん}です。

感性が鈍い人は……葛藤も起きにくいです。

（鈍感であれば、葛藤も起きにくいです）

「勘」のうごきがいいものですから、いろいろなことに気がつきます。些細ささいなことにも気がつきます。相手の欠点に気がつくとか、相手の嘘に気がつくとか、心に突き刺さるような鋭さをもっています。内面も複雑ですから、とうぜん葛藤も起きます。そういう性格の人物になる資質を備えているわけです。

龍高星・玉堂星ごぎょうの五行は水性、五徳ごとくは（印いん）で知恵の星です。

龍高星と玉堂星では、知恵の出し方が違いますけど、どちらも頭をつかうのが得意な星です。

鳳閣星・調舒星の五行は火性、五徳じゅは（寿かんせい）で感性の星です。

鳳閣星と調舒星では、感性の趣おもむは異なりますが、心のうごきをともなう観察眼はすぐれています。

参考：鋭敏（物事の理解、判断が鋭くすばやい）

参考：勘〔直感で物事を判断する能力〕

参考：感性〔心に深く感ずること〕〔印象を感じ取る直観的な心のはたらき〕

鳳閣星（陽星）と 龍高星（陽星）は「水火の激突」ですが、
〔鳳閣星は感性の星〕〔龍高星は知恵の星〕この両方を人体図
にもっているわけですから、頭がよい組み合わせでもある
わけです。 知能が高い人といえます。

☞ そこで「水火の激突」が特に多い人物を集めました。

アインシュタイン

ヒトラー

しむら
志村けん

タモリ

たくまもる
宅間 守（附属・池田小事件）

おかむらひろあき
岡村浩昌（京都小学生殺人）

はやし ま す み
林 真須美（カレー ヒ素混入事件）

さとうのぶゆき
佐藤宣行（新潟少女監禁）

☞ 55 頁に 8 人の陰占と陽占の宿命を記載しました。

陽占の宿命というのは人体図のことです。

アインシュタイン 1879-3-14

丙 丁 己

申 卯 卯

	調舒星	天恍星
鳳閣星	玉堂星	玉堂星
天胡星	石門星	天恍星

ヒットラー 1889-4-20

丙 戊 己

寅 辰 丑

	調舒星	天印星
龍高星	鳳閣星	調舒星
天貴星	鳳閣星	天南星

志村 けん S25-2-20

丙 戊 庚

戌 寅 寅

	祿存星	天貴星
鳳閣星	龍高星	龍高星
天庫星	鳳閣星	天貴星

タモリ S20-8-22

癸 甲 乙

亥 申 酉

	鳳閣星	天胡星
石門星	玉堂星	龍高星
天将星	調舒星	天極星

宅間 守 S38-11-23

(大阪池田小学校8人殺害)

庚 癸 癸

午 亥 卯

	調舒星	天報星
玉堂星	鳳閣星	司祿星
天恍星	調舒星	天胡星

岡村浩昌 S53-6-7

(てるくはのる)

庚 戊 戊

子 午 午

	龍高星	天恍星
調舒星	玉堂星	玉堂星
天極星	龍高星	天恍星

林 真須美 S36-7-22

(カレー 砒素殺人)

丙 乙 辛

辰 未 丑

	司祿星	天印星
鳳閣星	調舒星	調舒星
天南星	玉堂星	天堂星

佐藤宣行 S37-7-15

(新潟少女9年間監禁事件)

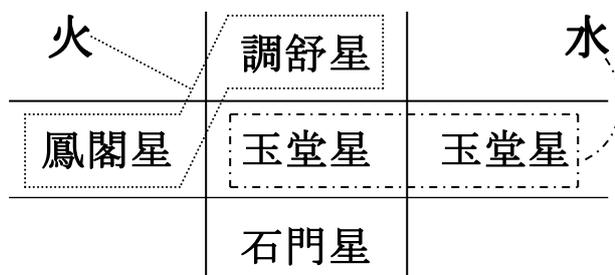
甲 丁 壬

寅 未 寅

	龍高星	天祿星
鳳閣星	調舒星	鳳閣星
天祿星	調舒星	天恍星

Q 55 頁に書かれている「アインシュタイン」の人体図を大きく書きました。

宿命(2)アインシュタイン



慣れますと人体図をみて……すぐに気がつきますが、
 鳳閣星（陽）と 調舒星（陰）火性の星が2つあります。
 玉堂星（陰）水性の星も2つあります。

人体図に載る十大主星は全部で5つです。

その中の4つが水火の激突になっています。

（人体図の大部分が水と火の状態です）

この人体図の最大の特徴は「水火の激突」です。

どなたの人体図でも……〔水の星1つ〕〔火の星1つ〕

あれば、それだけで「水火の激突」です。

それが人体図の特徴になります。

アインシュタインは、水と火だらけの人体図ですから、

「水火の激突」は人体図の最大の特徴です。

このような人体図は、精神の葛藤が^{とくしゅつ}特出して大きくて、感性も非常に^{えいびん}鋭敏で、知能が異常に高い人物……というふうに考えます。

水と火で占められていたら、まさに紙一重の宿命になります。

〔もの^{すご}凄^い天才になるか…〕 〔異常な人物となるか…〕
どちらかになりやすいのです。

Q ヒットラーをみてください。

ヒットラーは人体図にある5星すべてが水と火だけです。

(天才なのか) (異常人格なのか) 紙一重の人物です。

Q 志村けんさんとタモリさん。

お二人とも、火が2つ、水が2つです。

この姿も非常に頭のよい人です。

ばか殿をやっているのを見ると、頭悪そうに見えるかも知れませんが、あれはもちろん演技なわけで、本質的にはすごく頭のよい人体図です。

お笑い芸人・人を笑わせるというのは、ものすごく^{かん}勘・^{かん}感が鋭くないとできないでしょうし、頭の回転も必要です。

仕事で「水火の激突」を活かすのもひとつの方法です。

コメディアンとして、頭の働きはたらを使ってもよいですし、
アインシュタインのように、科学者になって頭の良さを
発揮するのもよいのです。

絵画・音楽などの芸術の世界、さまざまな分野において
頭の動きうごや感性の鋭さをつかってもよいわけです。

それをうまくつかえれば『逸材いつざい』です。

天才的科学家とか、天才的コメディアンになれるという
可能性を内在しています。

天才的政治家でも、天才的芸術家でもよいわけです。

参考：勘〔直感で物事を判断すること。第六感ともいえます。〕

参考：感〔心の深く感じること。物事にふれて心を動かすこと〕

参考：回転〔必要に応じて、すばやく方向転換すること〕

参考：働はたらき〔そのものの能力をフル活用して何かをすること〕

参考：動うごき〔それまでの状態に飽き足らず、何かアタらしいものに向かう〕

参考：逸材〔人並み以上にすぐれた才能の持ち主〕

⇒ 頭のはたらきがすぐれている状態を発揮できないとか、感性の鋭さを発揮できないとかの状況であっても、「心の葛藤、心の内面の複雑さ、感性の鋭さ」それらが無くなることはないのです。失ってしまうことは無いですから、鋭敏な感性など発揮して、学問なら学問に激しく立ち向かって発散すれば、人間としては正常な人になります。

ところがです。

頭のよさ、感の鋭さを活かさない^いと、精神の葛藤が大きすぎるもの^いですから、悪いほうへ出てしまうことがあります。1番可能性^いがあるのは病気です。

心中^{しんちゆう}・心の底^いでは、いつもすごい葛藤^いが渦巻^{うずま}いていて、それが強くなり過ぎることに起因して内臓を悪くします。消化器をやられたり、心肺機能をやられたり、不整脈とかの症状^{もと}を因にして、心臓が弱ったりとかです。精神の葛藤が強くなりすぎると、まずは体を壊すことが多いです。

参考：発揮（もっている実力や特性をあらわしだすこと）

参考：発散（自分の内部に溜まったある種の力、気力などを外に出す。まき散らす）

☞ 「水火の激突」には、もう1つの出方があります。

日常から……水火の激突を活かしていないと、頭がよいですから、とんでもない事をしでかすのです。

とてもふつうでは思い付かないような考えが浮かぶ……
そういう人物になってしまうこともあるわけです。

🔍 55 ページに8人の宿命が書いてありますが、そのうちの4人は犯罪者です。

たくまもる おかむらひろあき はやしま す み さとうのぶゆき
宅間 守。 岡村浩昌。 林 真須美。 佐藤宣行。

たくまもる
宅間 守の人体図にも、水と火が4つあります。

大阪の池田小学校で小学生8人を殺害した人物です。

小学校に入って行って小学生ばかりを8人殺したわけ
です。人間としてふつうであれば、思い付かないでしょう。

☞ 「水火の激突」を善いほうへと活かせない場合は、
ふつうじん
普通人には、とてもできない……とんでもないことを、
しでかす人間になる可能性があります。

おかむらひろあき

岡村浩昌（てるくはのる）……彼は水と火だけの人体図です。京都の小学校に入行って行って小学生を刺し殺して、自分も走って逃げて自殺した人物です。

小学校に入行って行って、小学生を殺害したのは、岡村が先です。

多分、岡村浩昌のした事をヒントにして、宅間守がおなじことをやったのではないかと考えられます。

はやしま す み

林真須美……ヒ素混入のカレー殺人（無罪を主張）

彼女の人体図も、水と火が〔4つ〕占めています。

風貌はあのように見えますが、非常に頭のいい人物です。

しかし、人格は全く別ですので、せつかく頭がいいのに、

その頭の良さを活かすための“生き様”が出来ていないと、備えもっている知恵を、とんでもないところで発揮するようになってしまうわけです。

町内会のお祭りで食べるカレーに「ヒ素」を混入する。

ふつう思い付かないですよ。

思いついたとしても、なんのために町内会のお祭りに、

そんな事をしなくてはいけないのか……？

宅間は小学生を8人殺しています。なぜ、あのような惨事を起こさなければならないのか、頭の良さを活かせていないと、普通人の感覚とは、まったく異なる感覚の人間になってしまいます。

宅間守と林真須美について“頭がよい”といいましたがこの頭のよさというのは、学校の成績が良いというのとは全然違うのです。おそらく学校の成績は悪いでしょう。

学者になれるくらい成績が良くて、知能を活かしていたのであれば、あのような事件を起こさないといえます。

ひょっとすると、アインシュタインほどの科学者になれる可能性をもっている人体図といえるかもです。

さとうのぶゆき
佐藤宣行……この人物は、新潟の女の子を9年間監禁した犯人です。水と火だけの人体図です。

小学生を自宅に連れて来て9年間も監禁するというのは、ふつうは思い浮かばないですし、どう考えても異常です。

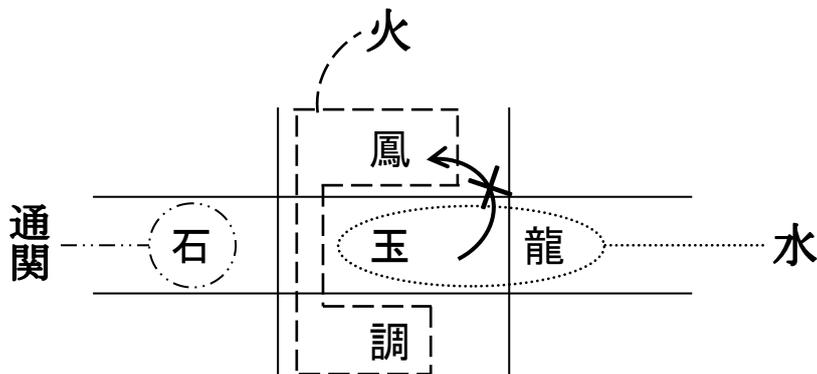
このような人体図の人物が、なにか有意義な目的意識をもって、その目的にその知能を発揮していたら、見事な人間になります。せっかくの頭の良さを、意義ある目的

につかわないで、^{むかち}無価値どころではない、とんでもない
犯罪に、頭をつかう人間になってしまったわけです。

よいほうへ発揮できれば見事です。

Q 55 頁に記載した「タモリさん」の人体図を大きく書き
直しました。

宿命・タモリさん ①A



人体図の〔龍高星〕〔玉堂星〕は水性です。

〔鳳閣星〕〔調舒星〕は火性です。

〔石門星〕木性が1つあります。

この人体図は、水性が2つ、火性が2つありますから、
相剋になっていて「水火の激突」があります。

人体図に「水火の激突」がありますが、〔石門星〕の木性
が1つありますから（水→木→火）と、相剋を相生に

変えてくれます。 ⇒ 参照 宿命・タモリさん ①B

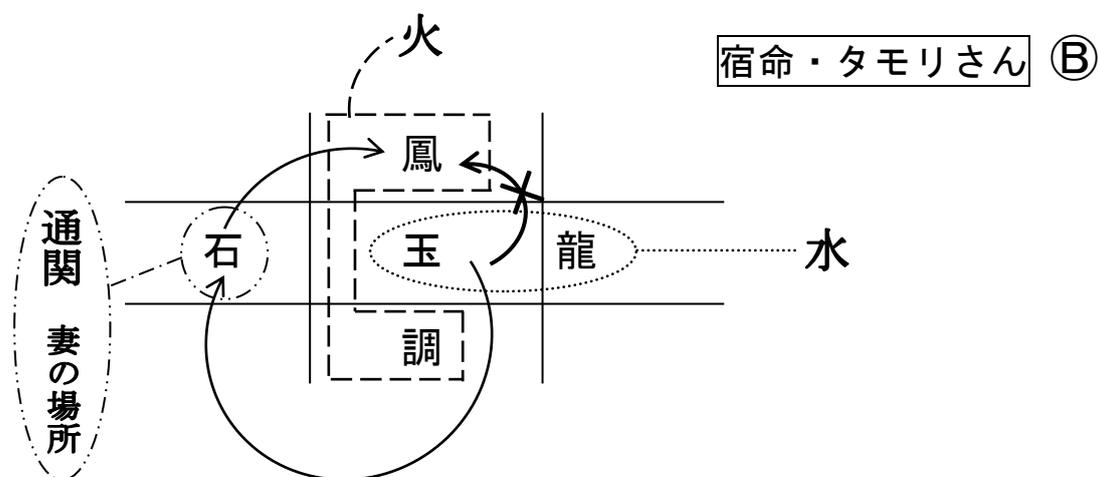
木性の(通関)が「相剋」を和らげる役目をします。

タモリさんの場合は〔石門星〕が通関になっています。

通関の役目が効いてくると、「水火の激突」がおさまってくる。というふうに考えるわけです。

☞ まだ勉強していないのですが……。

人物の占いするときは、〔石門星〕が載っている〔第一命星〕というのは(妻の場所)になります。



妻の場所……（配偶者の場所＝タモリさんの妻の場所）です。

彼の場合は、たまたま妻の場所に通関の石門星があります。

通関が働いてくると「水火の激突が和らぐ」わけですから、

妻と一緒にいるときは、よくいえば（心が落ち着く）悪くいえば

（感性が鈍感になる）わけです。

タモリさんは妻といると「水火の激突」がやわらぎます。

タモリさんは水火の激突で、星が発する閃^{ひらめ}き、頭の鋭^{するど}さをコメディアンとか司会者として活かしたわけです。

とても勘がよいです。パッと思いついたことを、さっと言葉にして表現できることが……並ではなく上手な人だといえます。しかし、妻と一緒にいるときは、その勘の冴^さえが鈍ります。(妻と一緒にだと気持ちやすらぐのです)

参考：とても〔並の程度を超えている〕

〔たとえば〕タモリさんの妻が野村監督の妻（サッチーのようなら）出しゃばりの妻です。(サッチーは他界しています)仕事にもTVにも妻がでてきて、出しゃばってきたら、タモリさんの頭が悪くなります。

閃^{ひらめ}きや知恵が回転しなくなります。

妻が出て来ないほうが、タモリさんの感性は研ぎ澄^とま^すされるわけです。このようにお考えください。

タモリさんが（特に感性を活かすような仕事とか知能をつかう仕事ではなくて）なにか他の仕事に従事しているのなら、妻と一緒にでも構いません。

☞ 通関はこのように観ていくようになります。

☞ アインシュタインは、第二命星の子供の場所にある
〔石門星〕が通関になっています。

アインシュタインは、最初の妻・ミレヴァ・マリッチと
離婚後、子供とは別離^{べつり}しています。(子供は妻が養育)

〔次男のエドゥアルトは精神疾患の発病後から2年後に精神病院に収容
され、55歳のとき脳卒中で他界するまで精神病院で過ごす。〕

アインシュタインはユダヤ人です。1933年ヒトラーが
統率する警察がユダヤ人を強制的に搜索する事態となり、
ナチスの迫害から逃れるために、1935年アメリカへ移住
して永住権を取得、1940年米国市民権を取得しました。

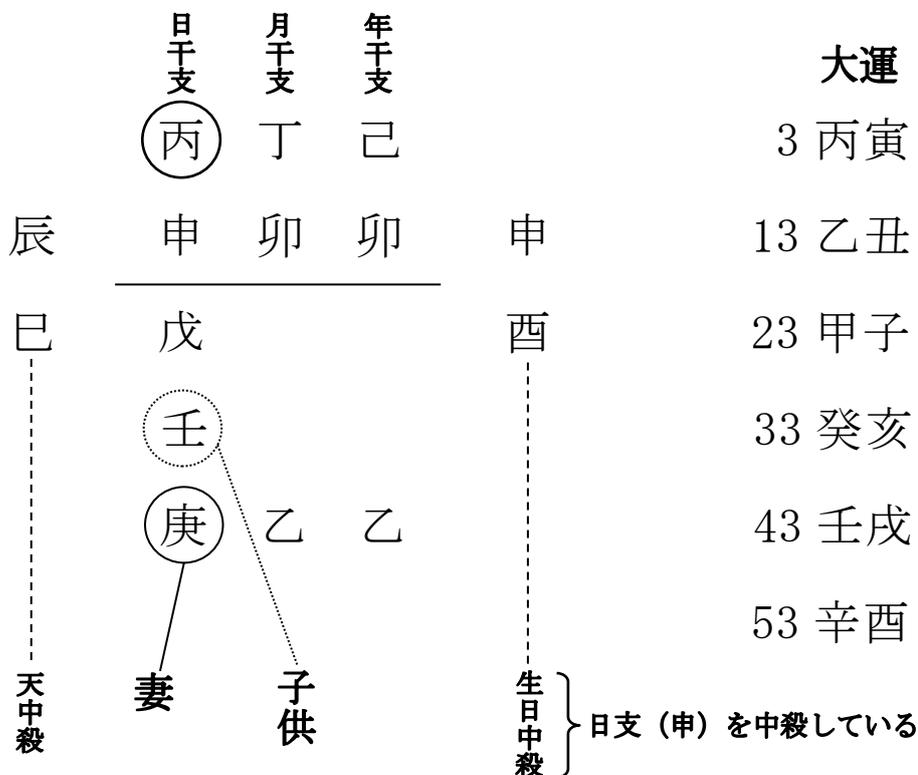
☞ 幼少期のアインシュタインは、言葉の発達が遅れてい
て、(両親は知恵おくれ)と考えていたのです。

学校へ入っても勉強はまるでだめで、格別によいところ
もなく、才能がない子供と思われていたそうです。

つねに成績はクラスの最下位でしたが、数学は平均値を上回り、
彼の隠れた才能を発見したのは叔父です。叔父はアインシュタイ
ンに代数・幾何学を教えたところ、15歳のときには微分・積分
を解くまでになり、スケールの大きさを開花させていたのです。

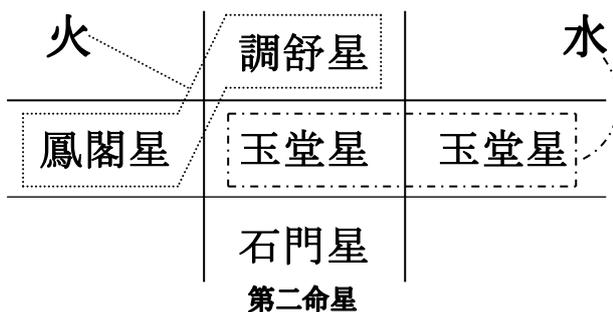
＊ アルベルト・アインシュタイン 1979-3-14 「陰占の宿命」

陰占はまだ勉強していませんが参考にしてください。



日干「丙火」の干合相手（妻）は辛金（陰）ですが、宿命に無いので、妻を庚金（陽）で採ります。母親〔庚金〕が（金→水）と生じて子供は壬水になります。この技法は上級で詳しく学びます。

「陽占の宿命」 人体図は陽占の宿命です。



陰占は陽占のあとで学びます。

アインシュタインの結婚は1903（明36）-1-6ですから、干支は前年の「壬寅」です。そして1月の節月干支は6日から「癸丑」です。妻（ミレヴァ）は子丑天中殺ですから、彼女の月の天中殺で結婚したわけです。妻は生月中殺の宿命です。

長男・ハリスは1904年5月に生まれですから、母親の月の天中殺で生まれています。

長男・ハリスはアインシュタインの年と月の天中殺で生まれています。

アインシュタインは離婚後、単身でアメリカへ移住しています。子供たちは母親（ミレヴァ）が育てます。

アインシュタインの家族は複雑に事象が入り乱れていますが、物理学者・アインシュタインは子供の犠牲のうで成り立つともいえますし、「水火の激突」あるがゆえに天才的^{ひらめ}閃きが湧き出た科学者ともいえます。

子供と一緒に生活して、子煩悩な父親の姿で過ごしていたとすれば、頭脳の冴えは鈍ります。

あざやかな感性も鈍感になります。

これも通関^{みかた}の観方です。

👁️ ^{さっこん} 昨今は、世の中で変な事件が多発しています。
宿命を出してみると、異常な事件を起こす犯人というのは……前述したような宿命が多いです。

「水火の激突」をもっていて、アインシュタインのように天才的な才能を発揮する人物もいるわけです。

それとは反対に、異常な犯罪を引き起こす可能性も横たわっているわけです。

宅間、岡村、林、佐藤、4人の宿命を見ておわかりのように、「水火の激突」があって、4人とも通関がないです。それゆえ「水火の激突」をやわらげることはできません。

しかし、^{いんせん}陰占の^{ねんうん}年運あるいは^{たいうん}大運で『通関』がまわっていた時期があったかもしれませんね。

8人の人たち……^{せいらい}生来の知能はとても高いです。

算命的には、知能が高いから犯罪者になるともいえませんが……知能が高い、その特性を善行として十分に発揮させることができなかつたために、残虐な事件を起こすようになってしまったわけです。

「水火の激突」があるから犯罪を引き起こす要因だとはいえないのです。

「水火の激突」は“^{もろは}諸刃の^{つるぎ}剣”のようなものです。

「善く出るのか……悪く出るのか」その出方によっては、
[正しい道理に従って生きるのか] [道徳、正義にそむいて生きるのか] 善と悪という大きなへだたりが現れてしまうということなのです。

まさに、^{かみひとえ}紙一重みたいな人体図だといえるでしょう。

参考：引き起こす [事件など、好ましくない状況を生じさせる]

参考：紙一重 (紙一枚の厚さほどのわずかなへだたり)

参考：へだたり (物事のあいだに差があること)

参考：道理 [ものごとのそうあるべき正しいあり方]

【初年】 36 回目【二星相関変化法①】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 37 回目【二星相関変化法②】 です。